

えりも町で漁獲された巨大マツカワ 一体重なんと 10kg！！

2017年10月9日、えりも町字目黒宇遠別沖の秋さけ定置網で巨大なマツカワが漁獲されました（写真1）。全長は81cm、体重はなんと10.2kgもありました。水産試験場ではこれまで1万尾以上のマツカワ標本を測定しており、表1に示したように、なかには相当な大型個体もありましたが、80cm、10kgの大台に乗ったのは初めてですので、文句なしの最大記録です。今回漁獲された巨大マツカワ（以下、巨大マツカワと呼称します）は無眼側に人工種苗特有の不規則な着色があること、鰭の縞模様が不明瞭なことから人工放流魚と考えられます。また、よく見ると臀鰭の前端部分が裂けたまま治癒した痕があります（写真1右）。おそらく過去に網に掛かるなどして負傷したものの、なんとか脱出し生き延びたと推測されます。

ところで、表1の大型個体は巨大マツカワをはじめ、メスばかりですが、多くのカレイ類と同様にマツカワもメスの方が大きくなります。ちなみにオスの最大記録は61.8cm、3.4kgの7歳魚でした。これでもオスとしては驚くほど大きく、たいていのオスは50cm、2kg止まりです。



写真1 今回漁獲された巨大マツカワ（左：有眼側， 右：無眼側）
右図中の黄色三角形は裂傷の治癒痕を示す

表1 水産試験場における大型マツカワの記録（函館・栽培・釧路水試資料）

漁獲年月日	場所	漁法	全長(mm)	体重(g)	性別	年齢(歳)	備考
2017/10/9	えりも町目黒	秋さけ定置網	810	10,230	メス	8	
2013/11/12	浦河町荻伏	秋さけ定置網	770	7,660	メス	7	
2014/12/8	様似町	刺し網	752	8,180	メス	8	
2003/12/28	森町	—	747	—	—	—	吉田・高谷(2007)
2013/11/25	新ひだか町春立	刺し網	740	7,450	メス	5	
2003/11/10	森町	—	730	6,900	—	—	吉田・高谷(2007)
2014/9/11	豊頃町大津	秋さけ定置網	730	5,936	メス	6	
2015/11/10	根室市歯舞	刺し網	720	6,721	メス	7	

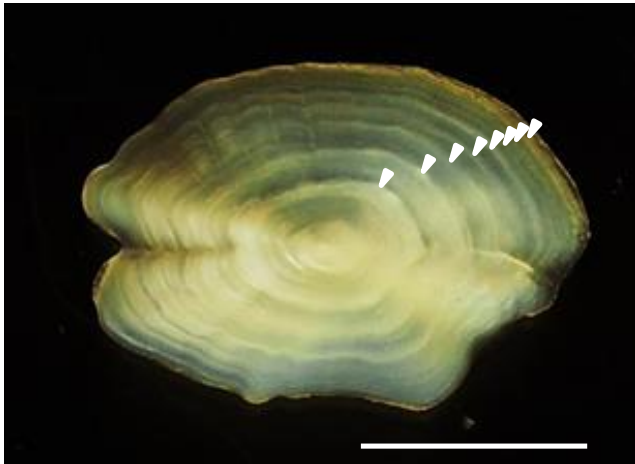


写真2 巨大マツカワの耳石
白三角形は輪紋位置を示す
スケール=3mm

巨大マツカワの年齢は、耳石輪紋数から8歳と推定されました（表1、写真2）。これも多くのカレイ類と同様、マツカワの耳石でも写真で白くみえる輪紋（不透明帯）が年1回、初夏頃に形成されます。過去の測定標本における最高年齢は同じ8歳でしたので、年齢では記録更新となりませんでした。逆にそれだけ成長がよい個体であったといえます。

巨大マツカワの卵巣卵は直径 $0.90 \pm 0.04\text{mm}$ （平均±標準偏差）で、成熟卵（約 1.7mm ）に比べて小さく、成熟途上と考えられました。しかし卵

巣重量はすでに 1.1kg もあり、よう卵数は $230 \sim 290$ 万粒と推定されました。これは平均的なメス親魚（4歳以上、平均体重 3.3kg で約 58 万粒）の4倍以上に相当します。マツカワは長距離の産卵回遊を行い、春期に本州の常磐沖で産卵することが明らかにされています。巨大マツカワもこれから産卵場に向かうところであったと考えられます。

北海道における 100 万尾規模のマツカワ大量放流開始（ 2006 年度）から 12 年が経過しました。近年、えりも町および浜中町で初めて天然稚魚が発見され、漁獲物中にも天然魚と考えられる個体が観察されるなど、人工放流魚を起点とした自然再生産の兆しがみえています。しかし、その規模はまだ小さく、マツカワ資源が自立再生産の軌道に乗ったとまではいえません。巨大マツカワのような高齢の大型メスは1尾あたりの産卵量が非常に多いため、たとえ尾数は少なくとも再生産に大きく貢献する可能性があります。マツカワ栽培漁業のステップアップに向けて、このような個体がさらに増えることが望まれます。

今回、貴重な標本を確保、提供していただいたマルイワ岩井水産、えりも漁業協同組合、えりも町栽培漁業振興協議会のみなさまにお礼申し上げます。

○参考資料

- ・「マツカワの最高齢・最大全長・移動範囲などの記録—えりも以西太平洋編—」 吉田秀嗣・高谷義幸 北水試だより 74（2007）
- ・「人工生産したマツカワの孕卵数」 渡辺研一・南卓志 日水誌 66（2000）

（北海道立総合研究機構 栽培水産試験場 調査研究部 吉村圭三）